

シンポジウム

事前予約申込フォーム



「縄文農耕論と焼畑」

2026年 1月 24日 (土)

9:00 ~ 16:30 (開場 8:30 ~)

会場：長野県塩尻市総合文化センター中央公民館講堂

参加費：500円（資料集代 ※購入しなくても参加できます）

定員先着 80名

※事前予約可能。電話（塩尻市平出博物館 0263-52-1022）または、
「事前予約申込フォーム」からお願いします。



プログラム

- 9:00~9:10 開会あいさつ
9:10~9:30 「縄文農耕」と焼畑：プロジェクトの目標と現在地
9:30~9:50 縄文時代に焼畑・火入れはあったのか
9:50~10:20 縄文中・後期土器の器種からみた植物資源の利用強化
(休憩)
10:30~10:45 縄文時代のマメ利用—レプリカ法の成果から—
10:45~11:10 縄文時代中期の石器組成
11:10~11:35 長野県飯田市下栗の焼畑調査と縄文農耕の復元
11:35~12:00 打製石斧の使用実験と使用痕
(昼休憩)
13:10~13:40 ラオスの焼畑集落とその社会
13:40~14:10 山梨県早川町奈良田の焼畑について
14:10~14:40 木の実食を考える
(休憩)
14:50~16:10 討論
16:10~16:20 コメント
16:20~16:30 閉会のあいさつ

- 誌上発表 八ヶ岳南麓における縄文時代中期の生業と植生
中部高地縄文遺跡出土植物遺存体集成

小松学（平出博物館長）
米田穣（東京大学総合研究博物館）
中沢道彦（長野県）
阿部芳郎（明治大学）

会田進（元長野県考古学会長）
塙原秀之（長野市埋蔵文化財センター）
小松隆史（井戸尻考古館）
原田幹（あいち朝日遺跡ミュージアム）

木部未帆子（東京大学）
上原佑貴（一般社団法人ほらじゅう）
栗島義明（明治大学黒曜石研究センター）

司会：米田穣・中沢道彦
佐野隆（NPO法人茅ヶ岳歴史文化研究所）

佐野隆
吉村璃来・関杏介・中沢道彦

「縄文農耕論と焼畑」 シンポジウム

縄文時代の生業に農耕、栽培があったとする説「縄文農耕論」をめぐっては一世紀を超して議論されていますが、未だ定見に至っておりません。「縄文農耕論」の論点は多岐にわたりますが、狩猟漁撈採集と生業全体の中でその可能性を検討、評価するとともに、土器や石器の機能・用途研究、民族・民俗誌に応用、科学分析など、総合性が求められる分野であり、その議論の中で研究は大きく進みました。

本シンポジウムでは、縄文農耕論の現状と課題を整理し、土器や石器の用途機能研究の成果を公表するとともに、今日でも一部地域で行われている焼畑を取り上げます。焼畑農耕は縄文農耕論のモデルとされた経緯がありますし、クリに代表される有用植物の管理や開発での「火入れ」の可能性も指摘されております。モデルとしてどこまで縄文文化の復元に適用できるかも検討します。令和時代の新たな人類史の枠組みにより、「縄文農耕論」の今日的意味を考えます。



会場アクセス



会場：長野県塩尻市総合文化センター中央公民館講堂

〒399-0738 塩尻市大門七番町4番3号 (TEL:0263-54-1253)

会場アクセス：JR 塩尻駅から徒歩 15 分 / 塩尻 IC から車で 7 分

研究の詳細はコチラ▼



researchmap



平出遺跡出土炭化クリ